

会 議 録

1 会議名

平成 28 年度上越市要保護児童対策地域協議会代表者会議

2 議題（全て公開）

(1)平成 27 年度児童虐待の実態と取組状況について

① 上越市すこやかなくらし支援室

② 上越児童相談所

(2)平成 27 年度上越市要保護児童対策地域協議会の活動実績

(3)平成 28 年度上越市要保護児童対策地域協議会の実施計画

(4)その他

3 開催日時

平成 28 年 5 月 11 日（水）午後 1 時 30 分から午後 3 時 00 分まで

4 開催場所

上越市役所木田庁舎 401 会議室

5 傍聴人の数

0 人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

関係機関等：角屋順一、石黒英進、矢坂陽子、桑原和文、佐藤幹夫、内山嗣久、

宮川大典、竹田定一、上野利彦、加納博志、上野則子、保倉政博、安田詮秀

岡田暁彦、小山貞榮、石田秀男、渡邊静子、中條美奈子、八木智学（会長）

関係課等：中野敏明、澤田靖、手塚博史、藤田賢一郎、清水謙一、栗田きよ子、串橋祥

子、田村一江、横山新太郎、内藤祐子、市川捨蔵

調整機関（すこやかなくらし支援室）：渡辺晶恵、小林健吉、二所宮智子、大島英徳、

石田綾佳、岩井美晴

8 発言の内容（要旨）

開会

あいさつ 中野教育長

議題

(1) 平成 27 年度児童虐待の実態と取組について

① 上越市すこやかなくらし支援室（石田社会福祉士）

資料 1 に基づいて説明

② 上越児童相談所（桑原委員）

資料 2 「上越児童相談所における相談状況」に基づいて説明

○ 質疑

竹田委員：確認だが、資料 2 の(4)は全国での統計か。

桑原委員：これは上越児童相談所での数である。

八木会長：警察からの通報が 26 年度に比べて 2 倍程度になったということで、直接携わることは少ないと思うが感覚としてはどうか。

内山委員：DV に関しても右肩上がりが増えており、そこに子どもがいれば面前暴力ということで心理的虐待として通報することは増えてきている。子どもについては、親の喧嘩から逃げられない小さな子どもや小学生が面前暴力として多く、切ない思いを感じている。DV についても生活安全課の所感であるが、実感として感じているところである。

石田委員：資料 2 の(5)、児童虐待の対応について助言指導が 8 割強行われているが、助言指導した後、問題が起きていなければいいがそのあたりは指導助言で完結されるのか。またその他の 17%のうちの児童福祉司指導措置と児童福祉施設入所の違いについて教えて頂きたい。

桑原委員：助言指導については、そこで相談が一区切りついたということだがそれで終わりではなく定期的に経過を追っている。加えて、上越市の要保護児童対策地域協議会のケースとして見守り体制を図っている。施設入所については施設に入所するので子どもは家庭にはいないという状態でその後の家庭復帰に向けての援助を続けている。児童福祉司指導措置については在宅に子どもがおり、親と共に虐待が再発しないように指導援助を行うものである。

(2) 平成 27 年度上越市要保護児童対策地域協議会の活動実績について

（すこやかなくらし支援室二所宮係長）

資料 3 「平成 27 年度上越市要保護児童対策地域協議会の活動実績」に基づいて説明

(3)平成 28 年度上越市要保護児童対策地域協議会の実施計画について

(すこやかなくらし支援室石田社会福祉士)

資料 4「平成 28 年度上越市要保護児童対策地域協議会の実施計画」に基づいて
説明

○質疑

保倉委員：資料 3、27 年度実績の個別ケース会議において「すこやか」と言っていたがすこやかとはどのような機関か。

二所宮係長：すこやかなくらし支援室の略です。

竹田委員：資料 4、11 月に行われる児童虐待防止推進月間のキャンペーンとは具体的にどのような方法で行うのか。

石田社会福祉士：主にポスターの掲示、学校などの連携機関に配布している。

竹田委員：地域の皆さんへのキャンペーンはないのか。そのような考えはあるか。

石田社会福祉士：市などの公共機関の窓口には掲載しているので、目にして周知して頂ければと思う。広報での周知も行っている。

竹田委員：このような物は一般の方には関心が薄い部分がある。このようなキャンペーンは大事なので頑張ってもらいたい。

石田委員：地域では青少年育成会議の挨拶運動や高齢者を対象にした見守り活動など色々なことを行っている。学校や幼稚園・保育園で発見するのは良く分かるが、問題は家に帰ったあと。家庭に入ってしまうと子どもの泣き声が聞こえても家に入っていくのはなかなか難しい。地域にもポスターなどがあれば良い。何か異常を感じたらお互いに早期発見・早期連絡を行えると良い。発見者もすぐには対応が出来ないと思われる。子どもや高齢者などの見守りは地域が行っている現状があるのでそれも利用していけば、早期発見・早期連絡につながるのではないかと思う。

渡辺室長：地域からの泣き声通告や、怒鳴り声が聞こえるなどの通報は頂いている。189 番やすこやかなくらし支援室の直通ダイヤルもあるので、周知しながら地域の皆様にも見守りして頂けるような形を作っていきたい。

(4) その他

八木会長：保育園・幼稚園・小学校・中学校・高校など現場を預かっている皆様からどのような形で虐待に取り組んでいるのか、連携策、課題等についてお一人ずつご意

見を頂いた後、支える側の皆様からどのような形で活動について取り組んでいるのかご意見を頂きたい。

岡田委員：現状としては就学前の子ども達の数が多いということで、どうしたら良いのか正直迷っている。私たちは小さい子ども達の窓口になるので、良く話す子や話さない子もいるが、保育士が遊びながら家庭の状況把握をしている。送迎時の母との雑談を交えながらの確認には力を入れている。幸い大きな問題はないが、知恵を拝借したいものがある。父母の思想の関係について、予防接種を受けないなど、考えがあって受けさせていないことが過去にあった。こちらとしては勧めていたが、子どもがアレルギーを持っていたこともありそれが関係していたようだ。こちらとしても限界がありどのように対応すれば良いのか。幸い、その子はアレルギーの数は多いが緊急を要するものではなかった。医者にも行くが治療は受けないとはっきり言う家庭。対処の仕方を教えて頂きたい。

安田委員：私立幼稚園の中では虐待について話すことは今のところない。子どもや保護者と関わる中で最近感じるのが、子どもを見ていないということ。まさに放置のスタートではないかと思う。子どものことについて疑問点があった場合、保護者と話をするが個人情報であるが故に他の所に持っていけない。今後ますます悩みとしては増えていくのかと思う。子どもについては範囲を超えて情報交換や共有が出来れば。幼稚園という世界で限定されていることは歯がゆいところである。上越市全体で子どもをしっかり見ていくということで進めていけば、こちらでも毎月子どもの様子の報告や情報を提供することもやぶさかではないと思っている。ご検討頂きたい。

保倉委員：昨年も出席させて頂き、ホームページに情報を流している。PTAとして直接的な相談は学校からはなく、具体的な対応もしたことはない。各家庭で隣近所の状況を良く確認しながら、情報提供や報告をするようにはしているが具体的には動いていないのが現状である。

上野委員：被虐待児のグラフを見て、小学生が増加しているのを目の当たりにした。増加の原因がどこにあるのか把握出来ていないので、教えて頂ければ何かしらの対応策は出来るのではないかと考えている。町場だけではなく田舎などどこにでもあるという意識で対応している。健康診断の折にあざ等ないか、担当が良く見ている。地域との連携としては、民生委員との懇談会を必ず持ち、子どもや地域の情報を共有し何かしら対応出来るよう進めている。子どもと先生が親しい間柄にな

ることで、子どもがポロっと話したことで心配な面があれば寄り添って話を聞く対応も出来ると考えている。一人、ネグレクト系な例がある。生活支援が入ると良いが本人達からの申請もなく入りきれない。衛生面が良くなく家庭にお願いすると、やると返事が返ってくるが実際は出来ていないので自立の為の洗濯指導などに取り組んでいる。良い手立てがあれば教えてほしい。

加納委員：各学校や地域での実態を踏まえての個別対応になるので、アンテナを高く的確に対応している状況。具体的な事例として、小学校・中学校・すこやかにくらし支援室・児童相談所と定期的にケース会議を持っていた。即効性のあるものはないが、情報の的確な収集と共有の為のネットワーク作りが大切と感じた。それぞれの機関の機能や役割があるが、上越市の場合はそれぞれ担当がおり、実情を踏まえて上手く整理してくれた。組織的に起動力のある対応が出来、進路決定までやり遂げることが出来た。これは効果のあった事例。関係者が力を合わせることの有効さを実感した。

上野委員：高校としては色々な機関と関わっており感謝している。年度変わりの4月に教育相談部門の主任と管理職とで挨拶回りを行っている。公的機関から連絡をもらいケース会議を開催することも度々あり。高校の役割としては、習得単位を取り無事に卒業し進路実現の支援を行うことが最大の目的。その為の情報共有として、中学校からの連携シートを使い心配な生徒の情報をもっている。虐待や不登校、いじめなどについてデータを作り、校内で生徒理解研修会を年数回行っている。生徒支援については、6月までに全家庭の家庭訪問を行っており複数担任制もとっている。高校教育課で家庭訪問費は持つとのことで、恐らく県内でも家庭訪問費が一番多いのは本校だろう。平成27年、年間300件の家庭訪問。教師も熱心に取り組む、相談にのっている。

宮川委員：当署からの報告事例は特にはないが、DV・虐待共に増加していることからどのような事例でも児相や中郷区総合事務所と連携して取り組んでいきたい。

八木会長：現場からの意見を頂き、次は行政やサポーター側からのご意見をお願いしたい。

佐藤委員：教育事務所の立場としては、糸魚川市・妙高市・上越市での虐待を含めた事故報告という形で上がってくる。それを県に上げるという立場で活動している。事務所にも生徒指導担当の指導主事1名、まだ未配置だがスクールソーシャルワーカー1名の配置になっている。各市町村・教育委員会の要望に合わせて出向き、個別の対応に当たっている。どこの学校・地域でも虐待は起こりうると感じている。

県の立場として各市町村の援助をしっかりと行っていきたい。

矢坂委員：保健所では虐待よりもその前の予防の対応を行っている。妊婦の入院や未熟児が地域に戻る前に、市町村の助産師とつなぐような会議を開催している。保健の立場で関わっている人に虐待対応が上手く出来るような研修も担っており、下支えをしたいと思っている。妊婦でも様々な家庭事情の方がおり、自分の対応で手いっぱいの方もいる。これからも病院や地域と連携しながら心配な方を支えたり、保健の方々の意識を高めたりしながら協力していききたいと思っている。

角屋委員：法務局は国の人権擁護に携わる行政機関であり、人権全般を取り扱っている。児童にかかわる部分としては、年1回SOSミニレターというものを全小中学校に配布している。悩みを書いて投函すると法務局に届くようになっている。今現在、深刻な相談は来っていないが内容によっては学校や児童相談所に相談し対応している。

石黒委員：角屋委員の話と重複する部分もある。午前中、人権特設相談が柿崎であった。財産に関する相談で持っているものが悩みの相談であった。聞きながらも半分笑顔が出るような相談であった。よろず相談ではないが財産の相談もあり、それも人権に関わる部分なのかと思う。

竹田委員：児童虐待となるとなかなか情報が得られないのが現状。昔の様な付き合いがなくなってきているが、行政・保護者・地域が三位一体で続けていかないとこのような問題はなかなか上がってこないのだろう。大きな声がするので見てこいと言われ訪問すると、大きな声で子どもが泣いている。しつけでやっていると言うが、金もなく生活に困っている状態。社協に頼むとその日のうちに対応してくれありがたかった。そのような機関を知っていることも我々の任務と思う。夏場のプールや絵本の読み聞かせなどの時に様子がおかしい子がいないか確認している。

平成27年度、SNSの被害児童が93人、コミュニティサイトの被害児童が1,652人、合わせて1,745人の児童が被害に遭っている。表面に出ない数字と合わせると膨大な数字になるだろう。保護者にフィルタリングをするよう伝えている。被害児童の94.8%がフィルタリングしていなかった。保護者の感覚を疑問に思う。機会があれば皆さんからも調整をして頂けるとありがたい。

小山委員：子ども会連合会には、幼児196名、小学生6179名、中学生854名、高校生が11名所属している。役割としては、小学生の子どもが活動するときに2番目や3番目の子どもも出てこられるような活動を行っており、各地区によって特色のある

活動を行っている。問題が起こる前の安心・安全を担う役目と思っている。中校生のリーダー育成や、皆様の前でスキルを発表出来るような機会を頂きたい。

渡辺委員：12名で活動。上越市・妙高市にて出産後家庭訪問しており、ほぼ100%の訪問率。出産後で不安も抱えており皆さん快く迎えてくれる。訪問時は良く見てくるようにと言われており、玄関や家の中の様子、上の子への母の対応、新生児にあざがないかなどを見ている。不安な家庭と思われる場合は市の健康づくり推進課にすぐ報告している。虐待でそのまま保護されたという事例も聞いており、役割は大きいと感じている。

中條委員：乳幼児を育てる家庭の支援をしており、虐待を未然に防ぐ役割を果たしていると感じている。親子の孤立が進んでおり、近所に子育て仲間がいないのが当たり前になってしまい、全て母が自分でやってしまう。助けてもらう、助けてあげることもないということが見受けられる。泣き声で通告されるのは皆さんわかっており、「叱る前にすることは戸を閉めることよね」という会話も聞かれる。笑い話で済む家庭も多いが、中には済まない家庭もあり市の方に連絡している。家庭相談員の大変さも感じている。仲間と出会えることが大切で、そこを支援するのが役割と思っている。他の価値観を知ることも大切、自分のやり方が全てではないと知ることによって予防出来る。仲間にするすることで孤立させないことを大切に活動していきたいと思っている。

渡辺室長：予防接種やアレルギーの件については、過去にも同じようなケースがある。効果は分かっているがその後の見通しを説明し、治療に結びついた。現状や効果効能、しなかった場合に今後どうなっていくのかを何回も説明するところかと思う。被虐待児に小学生が多いということで、小学校は6年間、1学年だと20人位かと思う。他の年代でも1年ずつで計算してみると、3歳以下が一番多いというところでは、物言えぬ子どもへの虐待が多いと改めて感じた。市民の皆さんから気づきのアンテナを張っていただくことが大切。今年は啓発をしながら、市民の皆さんの関心を少しでも高められるよう活動していきたいと思う。

八木会長：予定時刻も過ぎているので、ここで議事を終わりにする。

閉会

9 問い合わせ先

健康福祉部 すこやかなくらし支援室

TEL : 025-526-5111 (内線 1623)

E-mail : sukoyaka@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。